

普及活動検討会実施報告書

(大崎) 農業改良普及センター

実施月日：令和5年9月12日

実施場所：色麻町農村環境改善センター

1 検討内容

No	検討項目
	【現地検討】 (1) プロジェクト課題の現地検討 「ねぎ産地における冬越し囲い栽培の安定化と環境にやさしい栽培技術の取組拡大」(課題 No. 2) 検討会場へ移動 【活動検討】 (1) 令和5年度普及指導計画の概要 (2) プロジェクト課題の現地個別検討(課題 No. 2) (3) 令和5年度プロジェクト課題進捗状況(課題 No. 1, No. 3, No. 4) (4) 意見交換

2 検討委員の構成

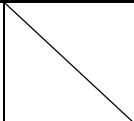
(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	(1)	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

※ () 欠席

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討項目 No. 1 「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の法人と連携を密にして、経済効果が最も出る方法を探すようにしてほしい。 ・アンケート調査をすることで、様々なことが見える化され、生産者にとっては「やりがいのある農業」の具体化がされていくことは良いと思った。高収益作物の検討に期待する。 ・地域で新たに法人を目指す時、どうしてもこれまでの活動（営農組合）では「おつきあい」でできていたものが法人を目指すことで、より本腰を入れる必要が出てくることから、離れてしまう方もいると思うが、組織立ち上げには止むを得ないところもあると思う。 ・同様の法人設立事例は他にもあるため、設立に向けた牽引者となるべき集落リーダーに対する普及センターの支援は必要不可欠だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査によって地区の意向がある程度明確化されたので、これから対象地区内で営農ビジョンを話し合う際に、集落リーダーの育成や地区外の耕作者も含む担い手の確保、高収益作物の検討など、対象を含めた地区内関係者の合意形成に向け、関係機関と連携しながら、丁寧に進めていく。
検討項目 No. 2 「ねぎ産地における冬越し囲い栽培の安定化と環境にやさしい栽培技術の取組拡大」	4. 8	<ul style="list-style-type: none"> ・排水技術が安定的に広く行われることと、安くできるようにシステム化してほしい。有機入り肥料でコスト面の工夫が必要ではないか。 ・試験区のほ場を見ることができ、よかった。次期世代を育てようとする思いを強く感じた。 ・条件を変えて取組んでおり、興味深く見せてもらった。地域特性に合った栽培方法につながってほしい。 ・出荷調整作業の受け皿組織があることから、今後は栽培技術指導による収量、品質の向上が栽培農家や栽培面積の拡大、所得向上に結び付くと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねぎの収穫はこれから本格化するので、収量や品質の状況をしっかり調査し、排水技術や混合堆肥複合肥料の効果を検証して、技術の利点と課題（注意点等）を示しながら技術の普及を図ります。また、地域への技術の波及と定着に向けて、関係機関と連携しながら技術の活用を進める。

<p>検討項目 No. 3 「中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上」</p>	<p>4. 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新商材の発展に期待！近隣の観光施設との連携でイベントができないか。 ・やくらい土産センターらしい取組がさらに進むとよいと思った。新商品の開発・栽培含め、生産者たちの意欲が感じられ、さらに充実していければと思う。 ・新しい力（協力隊終了者）とこれまで主力となって頑張ってきた人たちがうまく協力できる（溶け込める）よう支援いただければよいと思う。 ・普及センターの支援はもとより、行政やJA、加美町振興公社、商工会等からも幅広く意見を求めて、今後の組織運営を検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の周辺施設との連携も模索しながら、新商品開発や新規品目の導入など、新たな目玉商品の創出に向け、関係機関と連携しながら支援を行っていく。 ・今回新たに立ち上げるDX推進部会の活動を通して、ベテラン組合員や理事が、若手組合員に任せたいと思えるような仕組みづくりを進めていく。
<p>検討項目 No. 4 「子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術体系の確立」について</p>	<p>4. 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の輪作体系を作ることで、5年に一度の水張り対策につながることを期待する。 ・今の時にかなった必要な取組だと思うので、子実用とうもろこし、大豆、乾田直播の各支援の充実に期待する。 ・期待値は高いが、今後収量等がどうなるか（実績値）により今後の展開も変化してくると思われる。 ・飼料高騰の影響を受けての取組の感がありますが、難防除雑草対策や排水性向上による後作の大豆や乾田直播の栽培技術の確立に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから子実用とうもろこしや大豆、水稻の収量を調査し、輪作の効果を検証することで、より効果的な輪作技術体系の確立を目指していく。
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、農業者の支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト課題を中心に、今回御意見いただいた内容を踏まえ、引き続き、農業者や地域住民に理解され、効率的で効果の上がる普及指導活動を推進してまいりたい。